

平成20年度 川上・川下ネットワーク構築事業
成 果 報 告 書

委託法人名 (代表者名)	愛媛県中小企業団体中央会 (山本 功)	所在地	愛媛県松山市三番町 4 丁目 10 番地 1
契約名 (テーマ名)	平成20年度川上・川下ネットワーク構築支援事業 愛媛県のモノ作り企業と近畿圏川下企業等とのネットワーク構築事業		

1. 委託業務の概要

愛媛県の中小企業は、特定の大手企業(親企業)との従来型縦系列の取引関係(いわゆる下請構造)が強く、また、大手企業の細分化された部分発注に対応するため特定分野への専門特化などの傾向が依然として強く見られる。

このため、企業集積や技術の蓄積を有しながら、そのメリットを十分に活かしきれていない状況にあることから、地元中小企業では、これまでも、新たな収益の柱、新たな取引先の開拓等を目的として、個別企業ベースでの川下企業とのマッチングなどに取り組んできてはいるが、十分な成果には結びついていないのが実情である。

こういった隘路を解決するためには、川下企業の参画を確保しつつ、自らが中心となってテーマ別研究会を立ち上げ、その発展形である事業チーム等へと展開していくことが最も効果的であると考えられることから、近畿圏の川下企業と太いパイプを持つ、(株)ベンチャーラボの協力を得て、近畿圏の川下企業とのコミュニケーションの深化による「情報の非対称性の解消」と「研究開発の不確実性の低減」に向けた取組みを推進する。



1 フォーラム構成企業者数及び企業者名（川上）

川上中小企業者	川上中小企業者数	川上中小企業者・団体名
	33社	田中技研(株),(株)長曾鉄工所,日新工業(株),(株)福田工業,(有)アイエム工機,(株)阿賀田製作所,(株)飯尾電機,泉鐵工(株),(株)井出板金工業所,(有)伊藤エンジニア,(有)伊藤精工所,(有)伊藤プレス工作所,(株)クリタ,(株)コス21,(株)近藤工作所,(株)合田鉄工所,鈴木樹脂工業(株),瀬戸内溶接(株),大八工業(株),(有)タカヨシ工業所,(株)竹中金網,(株)タステム,(株)ダイテック,(株)中萩電機,(株)トーヨ,道前工業(株),(株)福崎機械製作所,瞳スチールワークス(株),(有)ピーシートレンド,(株)フラスコ,三木特殊製紙(株),(株)三宅工業,(有)森下工業所

2 フォーラム構成企業者数及び企業者名（川下）

川下企業者	川下企業者数	川下企業者・団体名・有識者名
	19社	不二パウダル(株),(株)日本ユニ,藤原工業(株),(株)万陽,(株)E & Sエンジニアリング,(株)ニシヤマ,(株)H I T Z,(株)東レエンジニアリング,(株)関電プラント,(株)クライオワン,(株)東洋ツール工業,鈴五商事(株)パナソニック・ファクトリー・ソリューション社,(株)イクロス,パナソニック(株),福岡電気(株),マルカキカイ(株),(株)永井表面技術研究所,川上産吉野材販売促進(協)

2. 事業実績

(1) フォーラム（シンポジウム・交流会等）開催実績

フォーラム名等	参加企業		参加数	開催日	開催内容
	川上企業	川下企業			
第1回次世代技術交流会	29 関連企業 業び機関	1社	55名	平成20年 12月18日	「有機ELの将来性について」 ・基本的特性 ・有機ELの作成方法 ・有機ELの技術的課題 ・有機ELの将来性 等 ・質疑応答 ・名刺交換会
第2回次世代技術交流会	30 関連企業 業び機関	1社	47名	平成21年 1月16日	「IGCCの現状及び将来展望 について」 ・IGCCとは ・IGCCの特徴 ・実証実験の成果及び課題 ・IGCCの将来性 ・質疑応答 ・名刺交換会

(2) セミナー・勉強会開催実績

研究会名	実施日	検討課題(テーマ名)	参加企業	
			川上企業	川下企業
第1次 技術 研究会	10月17日	川上企業のシーズニ ーズと川下企業のニ ーズの摺り合わせ。課題の 抽出。	一般産業機械器具(製缶)	環境機器等の機械総合 メーカー
	11月4日		一般産業機械器具(製缶)	各種プラントの建設・メン テナンス
	11月19日		製紙業	機械総合商社
	11月26日		屋内配管設計	建築設計工事管理業
	12月4日		ソフトウェア開発	電子部品実装機等
	12月10日		一般産業機械器具(真空 部品)	粉粒体機械製造
	12月11日		一般産業機械器具(製缶)	大型プラント建設等の機 械総合メーカー
	12月13日		銅合金鋳物製造業	金属加工機械製造業
	12月15日		一般産業機械器具(機械)	環境機器開発販売等
	12月16日		一般産業機械器具(切削)	切削工具製造販売
	12月18日		繊維製品製造業	繊維製品製造販売業
	12月18日		繊維製品製造業	板ガラス製品製造業
	12月25日		一般産業機械器具(製缶)	超低温用容器貯槽製造 販売
	1月7日		自動機製造業	開発型機械商社
	1月27日		一般産業機械器具(電機)	FAシステム
	2月4日		一般産業機械器具(切削)	機械設備の専門商社
2月6日	一般産業機械器具(組立)	各種洗浄剤開発		
2月10日	繊維製品製造業	吉野材の原木及び製材 品の販売		
第2次 技術研 究会	11月21日	昨年度研究会の深化	対象企業及び関係機 関 33名	家電総合メーカー
	2月17日	11月19日研究会の深化	製紙業	機械総合商社
第3次 技術研 究会	2月12日	11月21日研究会の深化	対象企業及び関係機 関 22名	家電総合メーカー

(3) シーズ・ニーズ調査実績

シーズ(川上企業)調査・・・33社、ニーズ(川下企業)調査・・・延べ29事業所

(4) 販路開拓実績

展示会名等	参加企業		開催日	開催場所	開催内容・検討課題等
	川上企業	川下企業			
件数無し					

(5) ジョイント・コーディネーターの配置及び果たした役割について

氏名	所属	専門分野	川上・川下間のシーズとニーズのマッチング及び連携コーディネートの内容等
森本孝克	株式会社ベンチャーラボ関西支社アソシエイツ	高分子材料	川上企業 33 社の実態調査により川上企業のシーズニーズを把握した上で、それに合う近畿圏の川下企業の掘り起こしを行うと共に、ネットワークの構築を推進。(大阪ジョイントコーディネータ)
松本進		電子デバイス、電子部品実装技術	
徳稲晃生		発電所の建設・工事および保守、運用管理等	
石川健治		フッ素系製品及び研磨材製品営業	
木谷晃夫		電子機器回路・表示装置の設計	
東浦利幸		生産自動機の設計開発、要素・工法開発	
淵上繁		金属加工、新製品の試作・量産立上げ技術	
間野洋治郎		半導体設計・システム LSI	
竹内幸男		産業機械・装置の電気・機械制御システムの設計	
小川順弘		医療機器開発及びシステム開発	
鈴木喜彦		ビニロン繊維の商品企画、用途開発	
海陸力		ガスメータ・配管・センサー・診断機器等の開発	
豊浦義朗		工程改善や新工場レイアウト等の生産管理	
水野潮路		各種エンジニアリング・プラスチックの開発	
寺内允		家電の製品デザイン開発や職能運営	
篠原俊一	人工皮革の研究、開発、生産、事業企画運営		
岡宗一	鉄鋼営業部門の販売・仕入等の管理全般		
武田克司	東予支所ジョイントコーディネータ	銅精錬設備の保全業務。社員のTPM教育、ISO14000取得指導	愛媛のジョイント・コーディネータもまとめ役として、大阪ジョイントコーディネータと川上企業の各種連絡調整及びマッチング経過のフォロー等の管理
高木稔	地域ジョイントコーディネータ	採用・労務・教育・安全衛生等の人事総務全般	川上企業の掘り起こし及び実態調査後のマッチングフォロー
藤瀬英揮		経営管理等のマネジメント全般	

3. 本事業の実施結果（成果）及び評価

成果

- ・専門性の高いジョイント・コーディネータ17名による、愛媛県の川上企業33社の実態調査により、川上企業のシーズニーズが明確に把握することができ、当初目標とした本県モノづくり企業の集積の強みの具現化ができた。
- ・燃料電池の工場見学会や2回の次世代技術交流会をとおり、川下企業とのコミュニケーションを深化させることが出来た。燃料電池については研究会への深化が図られ、本県モノづくり企業にとって、エネルギーや環境問題の切り札として期待されている燃料電池分野の足がかりを築くことが出来た。
また有機ELとIGCC（石炭ガス化複合発電）をテーマにした次世代技術交流会の開催により、新たな研究会立ち上げのための繋がりを形成することが出来た。
- ・川上企業のシーズ・ニーズに合う川下企業案件51件がリストアップされた。その内45案件が川下企業に対して提案がなされ、さらにその内21件が川下企業と川上企業の技術的打合せ、即ち研究会に発展した。詳細は以下のとおり。

マッチング内訳	回数	内訳内容
折衝予定企業数	51	ジョイントコーディネータ会議で折衝企業をリストアップ
一連アクション数	48	一つの案件に関して行う事前資料準備、根回し活動等を1回としてカウント
折衝実施回数	45	一つの案件に関し、ジョイントコーディネータが折衝予定企業と折衝した一連の活動を1回としてカウント
マッチング回数	28	実際に愛媛県企業と対象企業がお互い協議を始めた回数（一つの案件に対して2回以上引き合わせても1回にカウント。また電話等の種類は問わない）
個別研究会	21	愛媛県川上企業と川下企業担当者が一堂に会し、意思疎通を図るために行った研究会の回数 (企業別研究会：19、テーマ別研究会：2)
不成立	11	マッチングが困難になった案件数

評価

- ・各コーディネータが川上企業、川下企業それぞれのニーズ・シーズ情報を共有しながら取組みを進めたことで、コーディネータが持つ広範なネットワークを活用し、マッチング先の探索、斡旋が行えた。
- ・ジョイント・コーディネータを介して、通常であれば、県内企業がアプローチすることのできない近畿圏の川下企業とのコミュニケーションの確保が可能となった。さらに、川上企業が川下企業に訪問し、技術的打合せを行った研究会が15件実施され、新たな川下企業とのネットワーク構築への一歩が築けた。
- ・当事業システムの確立は、不況が深刻化する中で、本県モノづくり企業の新たな取引先の開拓という面でセーフティネット機能を効率的に果たすことが可能となった。

4. 連携プロジェクトへのアプローチについて

連携プロジェクト名	対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
			川上企業	川下企業
戦略的基盤技術高度化支援事業	切削、板金、プラスチック成形加工、金型、熱処理	川下企業の開発ニーズを関連川上企業に提示し、連携開発が可能な時は随時申請	5	1

(その他アプローチについて)

対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
		川上企業	川下企業
件数無し			

5. その他

相談内容	回答実績
件数無し	件数無し

6. 今後の取組み方針

本事業により、ジョイント・コーディネータが結節点となることで、従来は困難であった県内川上企業と近畿圏の川下企業とのネットワーク構築が可能となり、スキームが完成した。

今後は、今年度のマッチング継続案件のフォローアップや個別研究会の深化に向けた取組みを継続しつつ、県内支援体制の整備や事業戦略のブラッシュアップ等を行い、本支援システムの自立化に向けた展開を進めていくこととする。